

都が初めて除染を実施

共産党の追及で一步前進



都の放射線量測定に立ち会う(右から)大山、かち、吉田各都議 = 6月25日、葛飾区の都立水元公園

6月25日、葛飾区の都立水元公園で、共産党が要求してきた詳細な放射線量測定を、共産党都議団立ち会いのもと東京都がおこないました。

測定後、都は立ち入り制限をして、除染をおこなうことを表明しました。遅きに失したとはいえ、一步前進です。

放射能のホットスポットへの都の対応は、きわめて問題がありました。1ヶ所あたり25万ベクレルという生活環境にあつてはならない強い放射性物質を含む土壌などがあつても、都のおごりの調査ですら地上1メートルで0.99マイクロシーベルトの地点があつても、さらなる調査も除染もしませんでした。

都立公園で毎時1.22マイクロシーベルトを計測

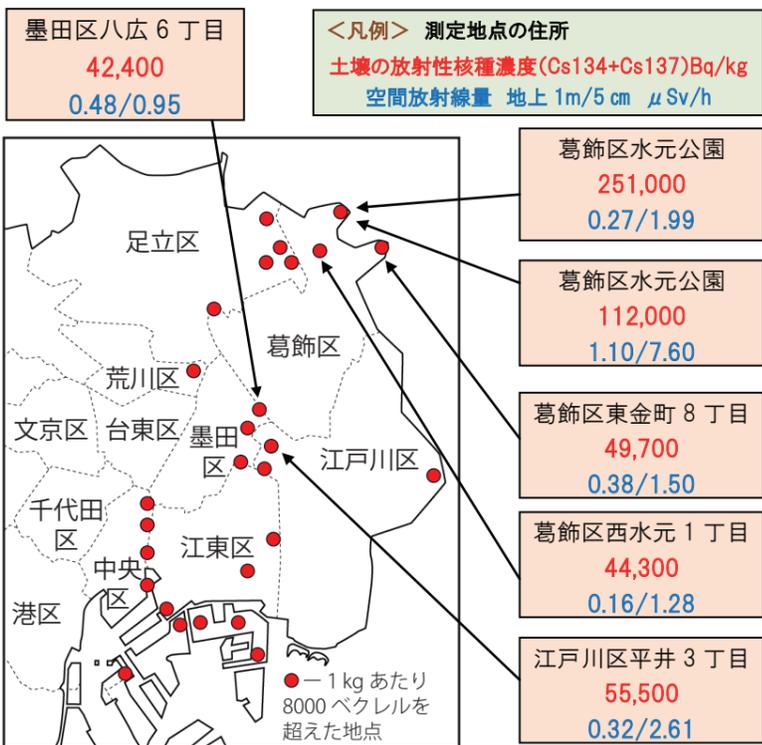
共産党都議団立ち会いのもと、都は地上1メートルで14箇所の間線量を測定。9箇所毎時1.16〜1.22マイクロシーベルトという結果となり、都のいう「周辺の値」を差し引いた除染基準の1マイクロシーベルトを超えました。党都議団の調査結果の正しさが、都の詳細調査によつても、あらためて裏づけられました。



都に申し入れをおこなう共産党都議団 = 6月22日、都議会

高放射線量が測定された地点は、側溝の泥をかき出し運んだり、放射性物質が凝集したことなどによると推定され、この日調査した地点以外にもあると思われる。原因を究明し、必要な措置をとるとともに、水元公園内をはじめ、都有施設を詳細に調査し、除染すべきです。

共産党都議団の調査で明らかになった東部地域の汚染状況



1kgあたり40000ベクレルを超えた地点については土壌汚染の濃度とその地点での空間放射線量を表示してある。

放射能汚染・ホットスポットは各地に徹底した調査と除染を

共産党都議団の調査で都内には、25万ベクレルの「黒い土」をはじめ管理型処分場が求められる8ヶ所、クレル以上の土壌が、

「通知」を出しました。当日の調査を受けて、東京都環境局は、各局にたいして、都有施設の詳細調査の指示はださなかつたものの、適切な維持管理の注意喚起を促す「通知」を出しました。

学校給食の放射能測定が開始 共産党の要望みのる

都教育委員会は、区市町村立小中学校や都立高校(定時制)、特別支援学校の給食の放射能測定をはじめました。共産党都議団がくり返し求め、昨年11月にはあげ上三和子都議(=写真)の質問に「適切に対応する」と答弁していました。1校あたり年3回程度ですが、測定結果は都のホームページで公表しています。



一方で都教育委員会は、都立学校の敷地内の放射能測定は必要ないとし、保護者などが測定したいと言っても断るよう学校に指示しています。子どもの安全・安心のために、きちんと測定をおこなうべきです。

中央区、港区、墨田区、江東区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区で検出されました(左上図参照)。

雨水が流れこみ、たまりやすく、水はけの悪いところでは、放射性物質が集まり、蓄積しています。

多くの都民や子どもたちが利用する都立公園、都有施設のまともな測定も除染もおこなわない都の姿勢は、都民の健康と命を守る立場とはかけ離れています。

共産党都議団は、放射能から子どもたちを守るため、追加被ばく線量をできる限り少なくするため、ひきつづき全力をつくします。